

バリヤードリード大学
交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学研究所
比較文化専攻 2年

2019年8月から約半年間のスペイン留学は、毎日が刺激的で、充実した日々を送ることができた。私にとって英語圏ではない国での生活は初めてで、不安なこともあったが、素晴らしい出会いや貴重な経験をすることができたと思う。私のスペインでの経験を、学校生活、普段の生活、そしてスペインでの思い出の3つに分けて報告させていただきたい。

まず、学校生活について述べていく。私が通った大学は、バリャドリード大学(Universidad de Valladolid)セゴビアキャンパスで、観光学科に所属した。授業は「観光地理学(Geografía turística)」と「英語(Inglés IV)」を履修した。「観光地理学」は、先生がパワーポイントを用いて授業を進めていた。また、3、4人のグループに分かれてスペインの観光地域のプレゼンテーションをした。グループを作れず困っていたところ、クラスメートが私をグループに誘ってくれた。私のグループの地域は、スペイン南部のアンダルシア地方で、グラナダやセビーリャ、コルドバなどの観光地がある。授業やプレゼンテーションはすべてスペイン語で行われるので、自分のつたないスペイン語がクラスメートに伝わるかとても不安だった。しかし、終わった後、クラスメートや先生が「良かったよ！」と褒めてくれたのでとても嬉しかった。

「英語IV」は3年生の授業で、C1、C2レベルだと担当の先生に言われたが、私が目指したいレベルでもあったため、挑戦することに決めた。授業は基本は英語で進められ、時々先生がスペイン語で説明を加えていた。今まで受けた英語の授業の何倍も難しく、ついていくのに必死だった。私は、スピーキングとリスニングが苦手だったので、分からないことはすぐ先生やクラスメートに聞くようにした。

次に、普段の生活について述べていきたい。私は、ロシア、ブルガリア、そしてイタリアからの留学生とシェアアパートで生活した。ロシアとブルガリアの留学生は

私と同じバリアドリード大学で、イタリアからの留学生は、セゴビアにある別の学校の留学生だった。休みの日はロシアとブルガリアの留学生と3人でマドリードに行ったり、セゴビアの街を散歩したりとスペインでの生活を楽しんだ。また、ポルトガルやイタリアに旅行に行ったりと今しかできない貴重な経験をする事ができた。一方で、食文化や生活習慣の違いで戸惑うこともあり、ルームメイトと意見が合わずギクシャクしてしまうこともあった。文化や習慣の違いを理解していくことは簡単ではないが、新しい視点や考えを持つことができる素晴らしい経験だと思う。



最後にスペインで印象に残った出来事について述べていく。一つは、留学で出会った友人たちが、私の誕生日を祝ってくれたことである。誕生日当日、一緒に夜ご飯を食べ、スペイン語や英語だけでなく、ポルトガル語や中国語で誕生日の歌を歌ってくれ、忘れられない素敵な思い出になった。もう一つは、バルセロナでスリに遭ったことである。バルセロナは特に危ないといわれており、私も気を付けていたが遭ってしまい、ノートパソコンが入ったリュックを盗られてしまった。まさか自分がスリに遭うとは思ってもいなかったので、とてもショックだった。次の日警察署に行き、何が起きたかを説明し、盗難届を出してもらった。私は、慣れない海外で自分が冷静に対処したことに驚くとともに、最悪の中で最善の対応ができたことが自信になった。また、状況を伝えることができたことで、自分の語学力が伸びていることを実感した。

スペインで過ごした約半年間、文化の違いや言葉の壁に苦しんだこともあったが、本当に楽しく、充実した留学生活を送ることができた。また、語学力が向上しただけではなく、精神的にも鍛えられ成長することができたのではないかと考える。多くの人種の人々との出会いを通じて、新しい考え方や意見を知り、視野を大きく物事を様々な角度から見ることができるようになったと感じる。この貴重な経験をさせてくださった方々に感謝し、将来この経験を生かし、国際社会に貢献していきたい。

